



第十六回

サラリーマン年金制度の大崩壊

10月28日付け日経新聞朝刊で「厚生労働省が廃止の検討を始めた厚生年金基金制度の改革案の骨格が27日明らかになった。10年で制度を廃止するのが柱だ。厚生年金の加入企業には公的年金部分の積み立て不足を自助努力で解消するよう求めるものの、それでも不足額が生じた場合、厚生年金保険料で穴埋めする。厚生省は年末までに成案をまとめ、来年の通常国会への改革法案提出をめざす」と報じられています。

厚年基金の半数が制度廃止

よくサラリーマンの年金は3階建てと言われています。1階部分は国民全員が加入する国民年金、2階部

分はサラリーマンが強制加入させられる厚生年金、3階部分が特定企業のサラリーマンが加入している企業年金です。しかし、バブル崩壊後、20年以上も年金運用が低迷していたため、多くの企業年金が既に解散に追い込まれました。

厚生労働省が管轄する厚生年金基金制度も「運用難から財政が悪化しており、2012年3月末時点で、厚生年金の半数にあたる287基金が積み立て不足に陥り、その総額は1兆円にのぼる。制度を存続しても財政健全化のメドがたたないことから、期限を区切って制度を廃止する」と報じられています。

サラリーマンは3階建ての手厚い年金制度によって老後の生活を保障してもらうことと引き換えに、会社に終身雇用で奉公することを強制されていたにもかかわらず、既に3階部分は崩壊、2階部分も積立不足分を自助努力で解消しなければ

ばならなくなってしまいました。

このような状態を自助努力で解消することができなければ、1階建ての国民年金しか持たない自営業者と変わらないことになり、いままでも給与天引きされていた厚生年金と企業年金の保険料を自分で運用していた方がよっぽど良かったということになります。

自分と家族の老後は自分で守る時代

学習院大学の鈴木亘教授によると、「現行制度のままでは、厚生年金は2033年に、国民年金は37年に積立金が底を突いてしまう」そうです。1階と2階の公的年金が存続できたとしても、低金利と賃金下落が続く現状では、支払った保険料に対して半分ぐらいの年金しか戻ってこないとの専門家による試算もあります。

いまの公的年金制度がそのまま続くとすれば、いま

の現役世代の人達が老後を迎えるとき、日本中に高齢の浮浪者が溢れかえることになりそうです。

そのような景色を見たくはありませんが、もはや古き良き時代の日本株式会社は崩壊したと認識し、自分と家族の老後は自分で守る時代がやって来たと考えるのが賢明です。

現在、中国在住の方からのお問い合わせが増えているため、今後は奇数月に深圳・香港、偶数月に上海で「海外で作る自分年金セミナー」を開催させて頂きます。参加費無料となっておりますので、情報収集の一環として、ご都合がつかれましたら、是非ご参加ください。

今月のマネーの教訓

サラリーマン年金の3階部分は崩壊し、1階と2階の公的年金制度の存続も危うい。国や会社に頼ることなく、豊かなリタイア生活を送るための自己防衛が欠かせない。



家族や老後の生活は自分で守る時代

香港在住国際金融アナリスト木津英隆による「海外で作る自分年金セミナー&個別相談会 in 上海」開催のお知らせ(参加費無料)

主催: Kenshin Asset Consulting (Hong Kong) Co., Ltd.

12月22日(土) 14:00~16:00 ▶ 上海万都中心1511室エリス・コンサルティング会議室

12月23日(日) 10:00~17:00 ▶ 個別相談会 in 上海(お一人様1時間・事前予約制)

http://www.kenshin.com.hk/ 社長ブログ: http://blog.explore.ne.jp/kitsu/

\\ 個別のご相談も随時受付中! /

セミナーのお申込はメールもしくはお電話で

info@kenshin.com.hk

TEL:+852-2567-1366

住所: Room 2302, 23/F, North Point Asia-Pac Commercial Centre, No.10 North Point Road, Hong Kong